ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.

シートNO.

ボーリング名	NO.B-1(右岸)	調査位置				北　緯	36 ° 53 ’ 29.0000 ”
発注機関	栃木県大田原土木事務所河川砂防部			調査期間	2008-07-22 ～ 2008-09-19	東　経	140 ° 01 ’ 39.0000 ”
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	224.77 m	角度	180° 上 下 0° 90° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 .00 °	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.00 °	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘進長	11.45 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
1	223.82	0.95	0.95		埋土 (Fl)	褐灰	緩い		0.60m礫径10から50mm主体。以下は細砂+シルト主体。		07/18 2.18
2					砂礫 (GS)	暗褐	中ぐらい		礫径10から40mm主体。 コア長50ミリ玉石点在。 間隙に粗粒砂を充填。 含水比は中位から高位。 全体的に土質やや緩い。 孔壁の崩壊あり。		
3											
4	220.47	3.35	4.30								
5					粘土質砂礫 (GSC)	暗褐	中ぐらい		礫径2から30mm主体。 風化礫、くされ礫多く混入。 間隙に粘土分を多く含む粗粒砂充填。 含水比は中位。孔壁安定。		
6	218.07	2.40	6.70								
7					粘土混り砂礫 (GS-C)	暗褐	密な		礫径10から50mm主体。 間隙に粘土分を含む粗粒砂充填。 含水比は中位から下位。 コア長50ミリ玉石少量点在。 7.9から8.1m間、粘土質砂層挟む 全体的に締まる。		
8											
9											
10											
11	213.32	4.75	11.45								

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0|10	10|20	20|30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	3	3	4	10／30	10
2.15	7	10	8	25／30	25
3.15	15	14	12	41／30	41
4.15	11	10	7	28／30	28
5.15	5	5	6	16／30	16
6.15	6	6	7	19／30	19
7.15	13	15	14	42／30	42
8.15	8	12	13	33／30	33
9.15	12	13	11	36／30	36
10.15	18	13	12	43／30	43
11.15	13	14	12	39／30	39

原位置試験

深度 (m)	試験名および結果

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法
1.15	1	㊀
2.15	2	㊀
3.15	3	㊀
4.15	4	㊀
5.15	5	㊀
6.15	6	㊀
7.15	7	㊀
8.15	8	㊀
9.15	9	㊀
10.15	10	㊀
11.15	11	㊀

室内試験

掘進月日
07/18
07/19